

- ◎. マリメッコ社(フィンランド)でのテキスタイルデザイナー時代の活躍は一般的に有名ですが、それ以前の日本ではどのようなことをされていたのでしょうか？
大学卒業後に、市田(東京・和装繊維製品卸売会社)へ就職しました。この会社では、自分がこれまで触れたことのない高級着物などを扱っていて、日本独自の色の対比や、色への美意識などの感覚が身についたと思います。仕事は着物のマーケティングや広告の担当で、新作発表会のディスプレイや店舗設計などもやらせてもらいました。その後の仕事でも、この時の経験が役に立ったと思います。
- ◎. 今回、紫陽花をデザインにしようと決めた理由を教えてください。
もともと、依頼のあった時には3つのデザインを提出したのだけど、その中で紫陽花が選ばれたのですよ。だからたまたまかな。(笑) でも、紫陽花はフィンランドでは一年中、花屋はもちろん、庭先や通りなどでも見ることができるのです。私にとっては身近な花ですから、必然的に提案するモチーフになりました。(インタビューの時も、今回のデザインのために撮影した植物園での紫陽花の写真をたくさん持ってらっしゃいました。)
- ◎. 作品には花をモチーフにしたものが多いですね？
おそらく、テキスタイルをデザインしていたことが影響しているのではないかな。花への興味は子供の頃からだけれど、どちらかというと花瓶に生けた花よりも、草っ原に生えるあるがままの野の花に興味があります。フィンランドだと、毎日通る道で、「もうすぐ咲くな。」と思っていた花が、ある日誰かに折り取られていたりするのだけれど(笑)、私が育った田舎などでは、誰に取られることもなく毎年同じ所に同じように咲く。それを見て育ったせいでしょうね。
- ◎. フィンランドへ拠点を移されて長い年月が経っていると思いますが、改めてフィンランドって、どんな国なのでしょうか？
一言で言うと「いいところ」じゃないかな。あまり複雑じゃないし。そういう意味ではフィンランドのプロダクトデザインの生まれた所以に大きく関わっていると思いますね。人もそう。すっきりとしていて、いい意味で淡泊。だから自分が自分自身でいられると感じます。
- ◎. 今後の活動について
やはり「花」をテーマにして作り続けていきます。現在も制作進行中。詳しいことはもう少し先になりますがね。お楽しみに. . .。

～ありがとうございました～

今年6月には、イッタラのバードシリーズでお馴染みのアーティスト、オイバ・トイッカ氏とともに来日し、北海道や沖縄を見て回った石本氏。インタビューでも度々その話になり、楽しかった思い出をお話いただきました。いつかそれを想像させるような作品が発表されるかもしれませんね。

ご自分でも「ホルテンシア」のプレートをお使いになられているようで、その感想を聞いてみると、「サンドイッチのパン(ドイツパンのような丸い形状のそれをスライスして具を挟んだものをイメージしてください)からはみ出したレタスの緑や、サラダに入れたトマトの赤などとの対比がとてもきれいで楽しくなるお皿」と、納得の出来の様子でした。

「ホルテンシア」シリーズは、

マグ(300ml)@¥3,150

シリアルボウル(φ15cm)@¥4,200

プレート(φ21cm)@¥5,250 (全て税込価格)

の3アイテム、各2,000個限定での販売です。

今年しか咲かない特別な紫陽花を是非お楽しみください。

